

第9回利根町小中学校適正配置等調査検討委員会 議事録

1 日 時 平成30年9月26日(水) 19:00～20:00

2 場 所 利根町役場5階A会議室

3. 出席委員(9名)

会 長	岡 賢市	副会長	川村 啓三	委 員	中澤 則明
委 員	船川 京子	委 員	近藤 敬一	委 員	大越 伸江
委 員	大竹 正人				
委 員	仲田 義弘				
委 員	浅野 恵次				

4. 欠席委員(1名)

委 員 花嶋 洋子

5. その他出席者 な し

6. 事務局

学校教育課長 大越 克典  
学校教育課課長補佐 河村 明  
学校教育課課長補佐 弓削 紀之  
学校教育課係長 布袋 哲朗  
学校教育課係長 大貫 浩希

7. 会議次第

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 事務局説明・意見交換

(1) 第9回検討委員会資料

答申書(案)【修正2回目】

(2) 次回の日程について

4. その他

5. 閉会

8. 議事

1. 開会

○事務局 ただいまより、第9回利根町小中学校適正配置等調査検討委員会を開催いたします。

## 2. 会長挨拶

○会 長

皆さんこんばんは。

この間、敬老の日がありまして新聞を見ていたら、100歳以上の人が6万9875名なんだそうですね。昔は100歳の人3人いるといったら凄いニュースになっていたんですけども、この間、教え子の同窓会でも言ったんですけども、人生100年の時代というのが来た様な気がしますね。

今からどういう風に生きていかなければいけないかというのが、やはり教育が実践しなければならぬ部分というのがいっぱいあるような気がいたします。そういう意味ではしっかりとした教育体制を作っていないと、将来の2020年問題という団塊世代の人達が75歳を超えるという時代、これは一体何かというと、70年前の人達の経済情勢から考えたら少なくとも半分以上の人達がたいしたところに就職できない時代で、その人達が70歳代に突入するということは、結果的には非常に貧しい生活をしなければならない70代が増えてきている。そこに如何にして、その社会保障なんかを積んでいくかというのも大事な事かなと思いますし、また、教育においても同じことが言えるような気がするんです。何でもかんでも両方追いかけていたら心のある子ども達の育成というのは難しくなってしまうのではないかと思うんですけども、バックキャストと言われているような新しいものをボンボン作り上げていくことは非常に良いことなんですけども、崩してはいけないもの、ちょうど十何年くらい前に「不易流行」という言葉がありました。「不易の部分をしっかり捉えましょう」という形でいましたけれども、学校においては、流行ばかりを追いかけてしまったということで、不易の部分が消えた中で、今の大人達が出来上がったと言っても過言ではないと思うんです。その中の基本になるものは誰が言っているかと思ったら、やっぱり森信三という人のことを思い出しますけども、「時を守り、場を清め、令を正す」これが学校教育の中で一番大事な部分ではないかなと思います。今は、やっぱり礼法が分からない、挨拶が出来ない、それから学校行ってみたら廊下や階段は埃だらけ。そういうところで教育

していて、そういうところで毎日生活していたら、それが慢性化するので、きれいなものが何なのか、きれいにしなければならぬということが分からなくなってしまう、そういう人を養ってしまうという教育もあると思います。そういう意味では「時を守り、場を清め、令を正す」と言われているように、そういうものをきちんと身に付けるような学校教育というのが基本にならなければならないんだなということをも最近考えております。

また、お茶の水女子大学の森隆夫先生は、昭和57年から59年にかけて日本の教育が荒れに荒れた時代があって、どうやって生徒指導をすれば良いのかという非常に苦しい時代に、森先生が、こうことを言っています。「人と接する時には春のような暖かい気持ちで、仕事に打ち込む時には夏のような強い気持ちで、物事を考える時には秋のような澄み切った気持ちで、自分を責める時には冬のような厳しい気持ちで」そういう姿で教師も子どもの前に立たなければいけないということを盛んに言っておられました。今日までこうして話し合ったことが、利根町の教育の中でどう活かされていくか、教育委員会が、学校がどういう風に受け止めてくれるかというようなことも考えながら検討してきましたが、1月に始まって今回で9回目になりました。

その検討も今日で最後にしたいと思うんですけれども、いままで本当にこの町の教育を今から高めて、子ども達が本当に良い力を身に付けて社会に飛び出して行くためには、一体何をしなければいけないだろうかということを考えて皆さんからも知恵を出していただきました。今から育つ子ども達、今から100年も生きないといけない子ども達に、どんな力を尽くしていくか、この統合、或いは学校を造ることとか単なる形ではなく、充実した中身に少しでも取り込んでいけるような教育体制が出来ると良いなということを感じています。今日は答申書の中身を一箇所ずつきちんと直していけば、良いものが完成すると思いますので、皆さんの意見をいただいて、出来たら早めに終われるような体制を作りたいと思いますので、よろしく願いいたします。長くなりましたが失礼しました。

### 3. 事務局説明・意見交換

○事務局　それでは、事務局説明、意見交換に入りたいと思います。  
ここからは、会議の進行を岡会長にお願いしたいと思いま  
すのでよろしくお願いいたします。

○会　長　それでは、まず説明の方を事務局でお願いいたします。

○事務局

第9回会議資料の説明

答申書（案）【修正2回目】

○会　長　今説明がありましたように、前回から修正されております。この資料は、事前にお手元に届いていたと思いますので、既に吟味されたということからご意見をいただきたいと思いますが、一つだけ、3ページの基本的な方針についての段のところの下から3行目。「その実践課程において」の「課程」は、プロセスということなので「過程」に修正してください。

どうでしょうか。1ページから直したところを順々にやっていきましょうか。今日が最後になると思いますから忌憚のない意見をよろしくお願いいたします。

○委　員　1ページの元号表記で、私も正確にはお答えできないんですけど、「平成天皇」と呼ぶには、「今上天皇」が譲位されてからその元号で呼ぶと思うので、今、「平成天皇」となっているところは、「今上天皇」と直した方が良いのかなと思います。

譲位してから「平成天皇」、「昭和天皇」と呼ぶのであって、本当に細かいことなんですけど、一般的には「今上天皇」という風になると思うんです。

今の天皇のことを「平成天皇」とは、多分言わないと思います。

○会　長　我々は一般的な言い方で「昭和天皇」、「明治天皇」、「大正天皇」というような形で呼んでいるから、その辺はよくわからないですね。

○委員 「現時点において」と文言がその次の行に入っているので、現時点で見る訳ですから、委員が言うとおりに「今上天皇」が正しいのではないかなと思います。「昭和天皇」も大喪の礼が終わってから「昭和天皇」ですからね。

○会長 なるほど。分かりました。「今上天皇」に直しましょう。有難うございました。良い勉強させていただきました。

それでは、続いて2ページ、3ページにいきます。

3ページの「基本的な方針について」を読んでいる、ちょっと後の方で引っ掛かったんだけど、下から2行目。「凝らしながら教育の成果を上げる」となっていて、「教育の成果を本当に上げるのだろうか」、ここで上げるって断言していいのだろうか、どうでしょうか。

○委員 課題が見つかって、それを解消してということですよ。

この間、「発展的に」と言われていたけど、発展的に考えてのことですよ。それ以降ということで、成果として上がってくるかどうかと言うと、希望的観測ではないけど、そういう考え方もあると思いますよね。

○委員 ここへ来て蒸し返すつもりは毛頭ないんですけども、その「弾力的な教育課程を編成し」という文言が入ってますよね。具体的に言えば、例えば小学校の1年から4年まで、それから小学校5年、6年、中学校1年の3年間、あと後半の2学年と三つくらいに分けるとか、或いは、4と5、或いは、5と4に学年を区分して、一方では教科担任制とかを導入するということだと思っんです。そうすると、やはり一貫校としては、一番理想的なのは一箇所にあることですよ。それを今回は分離型で、場所は別々ですよ。その中でどんな風にその教育課程を編成するのか、ただ単に小学校の方へ5年生から教科担任を入れて授業をすといっても中学校の先生と小学校の先生が交流するのは、ちょっと難しいかも知れないですよ。良く考えるとそこまで言及する必要がないと思っんですが、その「弾力的な教育課程の編成し」ということでいけば、会長がおっしゃったように確かにその「凝らしながら成果を上げ」それは引っ掛かるかなという風に私は思います。

○会 長           ただ、「弾力的な教育課程を編成し」という言葉の中には、もっと大胆にやっても良いと思うんですよ。例えば小学校5年生、6年生には中学校の先生が来て、小学校の教諭が4年生くらいまでは今の制度でやるけどもでも、3、4年生の「ギャングエイジ」と呼ばれる学年においては、組み方を変えるとかいろいろ弾力的にできると思うんです。それで小学校だけで、区分しようと思ったら5年、6年辺りだと先生の数から考えてみて結構組めると思うんです。だから、そういう教科担任的な組み方をしておけば、「中一ギャップ」というにはなくなる。一教科でも二教科でもそれが出来ていれば、だからそういう意味でこのところは、ただ、「教育の成果をそのことが上げることなのかどうか」ということでちょっと私も迷ったんです。上げなければならないんだけど、発達段階に応じた子どもの成長をしっかり見守ることは出来るということと、そしてその中で小中連携から考えて小学校と中学校の交流が出来るようになれば、一貫した教育の流れというのが存在してくるんだと思います。だから、そういう意味では成果もそれなりに上がってくるのかな。完全に上げるというような断言が出来るかどうかという、逆に言えば教育の成果を上げるために小中一貫校が必要となるか、この前後があるからこの文言で良いならばそれで続けたいと思うんですけども、その辺ちょっと意見があったら出してみてください。無かったらこのまま行きたいと思います。

○委 員           私は良いと思います。

○会 長           よろしいですか。このページ、3ページ、これでよろしいでしょうか。良かったら举手願います。

                  はい、有難うございました。

                  では、4ページに入っていきます。

                  この辺どうでしょうか。平成35年度に統合して「約20年後には」というところに繋がっていくと、ひょっとして小中一貫校は「20年後」にならないと、やらなくても良いかもしれない。「20年後には」ではなくて「将来においては」というように、その辺はどうですか。これでいくと20年間は出来ないのではないかと捉えられないかな。後半の方は良

と思うんですよね。小中一貫校を造るのであれば文小学校の方が良いという意見だったから。

○委員 この「20年後」というのは、あくまでもその小中一貫校の施設一体型という風な捉え方だと思うので、前にも言っているように小中一貫教育については、統合後、検討するとなっているので良いと思います。

○会長 20年後まで待つ必要があるのかどうか、どうですか。

○委員 施設一体型の小中一貫校の検討は、そういうことになりましたが、あくまでも統合後に小中一貫教育を検討しますというような文言だったかなと思うんですが。

○委員 施設一体型にするのに、一番良いのは直ぐやるのが一番良い訳なんですけど。

○委員 何のデータもないですけど、結局はこの一体型に成らざるを得ないときが必ず来ますよこの後。20年後なのか、その統合してから10年後なのか、20年前にはその時期が来るのではないかなって感じはしますよね。

○委員 検討委員会の設置について、先程の「20年」にこだわらずに、「適切な時期に」という文言を下から3行目の、「その際には」の次に入れた方が良いと思います。そうすると「20年」にこだわらずに必要なになったら、やらざるを得ない状況になったら検討する意味になるので入れた方が良いと思います。

○会長 そうすると「周りには公民館、図書館などの公共施設があり文小学校が最適と考えます。」そこで切って、「その際には、適切な時期に学識経験者・保護者等による調査検討委員会を立上げ」となるので、「20年」にこだわらず、やれるときにこの人達に集まってもらって検討してもらおう文章になりますね。

○委員 ちょっとよろしいですか。私はこのままでも良いと思う

んですけど、「20年後には長寿命化改修工事を実施せざるを得ず」というのは、ありのままの事実で、事実を伝えたいので次に「さらに町内の児童生徒が著しく減少した場合には、」と、要するにその道を選らばざるを得ない状況になった時には、望ましい時期が来たら調査検討委員会で再検討するので、そんなに誤解されるような文章ではないような印象を持っています。

○会 長       それは分かるんです。ただ、どうしても年限を20年後としているように感じてしまうので、あまりにも「20年」が強烈過ぎるので、もっと早く出来るのではないかなと思うんです。

○委 員       自分が勤務していた学校は分離型で、やはり施設一体型にした方が「あーだこーだ」意見は出てくるんですよ、出てくると思います。だから、20年待たずに多分現場の方からそういった意見も出てくるだろうし、これは我々も考えなければならぬことではないですかね。

○委 員       結局は、この検討委員会で最初に話し合ったと思うんですが、施設一体型の義務教育学校をというのを目指しましたが、結局、現状では「小学校3校を統合して1校の小学校にするべき」という結論に至った訳じゃないですか。

それで5年後の統合ということに進めましょうということですよ、今この話は。私は、まだ、そういうのが分からないんですけど、実際に小学校3校が統合しまして、1年目から絶対にうまく運営されるかどうかなんてことは、ちょっと状況がやはり3校が1校になるので、いままでの三つの学校の子どもの特色とかいろいろあるだろうし、直ぐに9年間の教育過程を導入しましたという風にはならないのではないかと私は思うので、20年というスパンを長くみた中での間で、子ども達が減少したり状況が変わったら新しい施設を視野に入れて検討していくという風に言っているから、それでも私は良いのではないかなと思うんですけど。

○委 員       何か逆にこの20年後までの間には、施設一体型若しく



は隣接型の一貫校を建てる方向に町は行きますよって、逆に示唆しているような表現なので、私は、例えば、地域によっていろんな町民感情があると思うんですが、そういった人たちの理解の土壌も少しかもしれないが醸成されるような印象をもった文章表現だったので、私は個人的には受け入れられたんですけど。

○会 長 皆さんの意見がこれで良いというのであれば、これで通したいと思うんですけども、何かそこに到達するまでに、まどろっこしい部分、何ていうか悪い言葉で言えば、行政の怠慢な部分を優先させているように思うんです。本当は子ども達が先でなければ駄目なんです。

小中一貫教育にしても、校長先生方をお願いしたいんですけども、統合してから取り組みますよと言っていたら子どもは居なくなります。だから、布川小学校に集まったと同時に、この部分については、ここから切り崩していこうではないかということで、小中学校の先生がまとまっていけば学校のまとめ方もうまく整っていくと思うんです。

○委 員 その前に、5年も待たずに小中一貫教育に向けた取り組みをすれば良いんですよ。中学校がイニシアティブをこれから握って小中連携を進めていこうと思っています。

例えば、体育祭に小学校6年生を招待するとか具体的な案はいくつかあるんです。中学校の吹奏楽部の生演奏を小学校の運動会とかで披露するとか、利根町ではやってこなかったんですが、取手市や龍ヶ崎などでもやっていますので、取り入れたいとは思っています。

○会 長 平成19年度に中学校が統合して、次の年に小学校の数が減ったんですね。もうその時点で、今の小中連携が始まっていれば、今頃は、もっと弾力的な教育課程ができたと思いますよね。

そうすれば、答申書の文言に現わす必要もなかったんですよ。今の状態でもそうやって出来るんだったら。

○委 員 小学校の先生が中々それを提案するのが難しいと思うので、小中がいかに連携していけるかということですよ。

小学校は、幼稚園、保育園との連携が今すごく重要で、小学校は小学校で課題がありますよね。

○委員 おっしゃられたように、今、布川と文間と文の小学校同士でいろいろなことを合わせていこうというようなことで、今度また教科書が変わりますので、まずは、とにかく時間割り回りからしっかりと同じ歩調でやっていくようなことを取り入れれば、中学校へ行ってもスムーズにいけるのではないかなというようなことも、今考えています。小学校は小学校で足並みそろえて、中学校へ送り出したいと思っています。

○委員 小学校凄く良いんですよ。三つの小学校の学力も上がってきましたので、本当にいい取り組みしてきてくれるので、中学校の責任は大きいですよ。

○会長 そういう風に進んでいる現状があるんだから、「20年後にうんぬん」ではなくて、現状として小学校3校と中学校1校でも取り組んで出来そうだとすることであれば、早く組み込んでいきましょうよと言った方が私は良いような気がするんだけど。

○委員 それは具体的な方策のところでは望ましいって判断しているし、取り巻く環境が変化しますし、まずは統合が最優先の課題っていう風に明記されているので、相応の時間も必要って、これは私たちが話し合っただけで入れた文章なので。

○会長 それは大事なことなんです。だから、今なら替えられるよということを言いたいんです。具体的な方策の部分、その他の部分も含めて、何か引っかかる表現があれば、今なら替えられるんです。

○事務局 長寿命化改修工事の約20年後という文言を入れたのは、2ページの「統合場所」の部分で、大規模改造工事が完了した布川小学校が統合場所に適しているということを言っているのですが、ただ、20年後には改修した学校であっても、また工事が必要になってしまうということをここで言っているんです。20年後には、またこういう工事が必要になっ

てきますので、子ども達がまた減少してきたときには、小中一貫施設一体型、隣接型の新設するこの検討が必要になってくる。布川小学校が使用できなくなったり、また工事の必要がでてくるので、文小学校に新しく造るという検討も必要となります。

○会 長        いずれにしても、20年経ったら布川小学校の校舎というのは使えなくなるから同じような工事をしなくてはいけなくなるということですか。

○事務局        工事をする必要が出てくると思います。また、子どもが減ってくるということも想定できると思います。

○委 員        子ども達が減ってきてしまうから、それに見合った小中一貫型の学校を造るということなんですか。

○事務局        その時は一体型の小中一貫校を新たに新設するというようなこともありうると思います。

○事務局        先程から会長がおっしゃっているのは、今のこの検討委員会が、大規模改造工事が終わった後に開始されていて、答申書の中に、この「20年後」という文言が入ると、また同じような形になってしまうのではないかなということで、多分おっしゃっていることだと思います。もし、このまま「20年後」という文言を残すのであれば、最後の「検討」の前に「早期に」という文言をいれ、「著しく減少した場合には、施設一体型、施設隣接型の小中一貫型小学校・中学校を新設することも視野に入れ、早期に検討する必要があります。」という風にさせていただいて、最後の「その際には、」のところは、先程委員の方からありましたように「適切な時期」を入れて「適切な時期に学識経験者・保護者等による調査検討委員会を立上げ」という形の修正でどうでしょうか。

○会 長        そうすると何か強烈さがなくなるイメージだね。  
これでいきましょう。よろしいですか。  
5ページのところは一番下のところへ付け加えられただけですけどどうでしょうか。よろしいですか。

7 ページ以降の資料については、検討委員会に提出していただいた資料ですから問題ないと思います。

それで24, 25 ページは経過の記録がありまして、皆さん方の名簿が26 ページということになります。

それでは、私達は、「諮問事項1」と「諮問事項2」の二つの諮問を受けました。それに対していろいろ議論をした結果、今日修正した内容が完成版ということで、答申については2 ページから4 ページ、付帯意見として、5, 6 ページ、こういう結論をするという形でよろしいでしょうか。

それでは、今度は、今後ここで教育長と教育委員会に報告しなければいけないんですけど教育委員会の報告というのはどういう形でやりましょうか。

事務局の方で意見があったらお願いします。

○事務局 今年1月から計9回に渡りましてご審議いただき有難うございました。検討委員会は、答申書を提出して終了となる訳ですが、提出につきましては、皆さんに出席していただければ良いんですが、日程等も中々合わなかったりすることもあると思いますので、会長、副会長に出席をしていただいて、教育長へ提出していただくことで、いかがでしょうか。

○委員 「異議なし」

○事務局 日程につきましては、会長、副会長と調整させていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

○事務局 最後に、25 ページなんですけど、一箇所訂正がありまして、6 番目の第6 回検討委員会の丸三つ目の最後のところなんですけど「ことをとした。」というようなことで「を」を一字削除します。それと第8 回と第9 回の経過記録を事務局で追加して8 番目、9 番目として記載させていただきますので、よろしく願いします。

○会長 それから一つ言うならば1 ページの〇〇回のところ9 回になりますね。

最後、事務局で締めてください。

○事務局 調査検討委員会の方9 回に渡りまして本当に皆さまの忌

憚のない意見を出していただき、まとめることが出来ました。  
誠に有難うございました。本日の会議をもちまして利根町小  
中学校適正配置等調査検討委員会を終了とさせていただきます。  
有難うございました。